

研究動向

大学におけるジェンダー教育と男女共生社会

梅垣 千尋

本プロジェクトは、現代教養学科教授・鈴木直子リーダーのもと、2019年4月に開始した。その目的は、大きく分けて二つある。ひとつは、女子短期大学総合文化研究所の最終研究プロジェクトとして、青山学院女子短期大学における女子高等教育・教養教育・キリスト教教育の意義を再確認するための調査研究である。もうひとつは、女子短期大学総合文化研究所内に2020年4月に新設されたジェンダー研究所を、2021年4月に青山学院大学内に移管するにあたり、その使命を確認し、具体的な役割と活動内容を検討するための調査研究である。

この二つの目的のために、具体的に次のような四つのセクションを設け、各メンバーの担当を決めた。なお、2020年度からは梅垣がリーダーを務めることになった。

(1) 青山学院における女子高等教育の歴史 (所員：小林瑞乃・清水康幸・八耳俊文、客員研究員：齋藤元子) ※八耳は2019年度のみ。

(2) 女子短期大学卒業生の卒業後のライフコースの研究 (所員：宇田美江・菅野幸恵)

(3) 共学四年制大学におけるジェンダー教育の意義 (所員：梅垣千尋・後藤千織・鈴木俊之・鈴木直子、客員研究員：藤田和美) ※鈴木直子は2019年度のみ。藤田は2020年度のみ。後藤は2020年度から客員研究員。

(4) 青山学院大学女子学生・青山学院短期大学卒業生・社会人女性のエンパワーメントに資する生涯教育のかたちをめぐる研究 (所員：河見誠・趙慶姫)

2019年度から2020年度前期までの研究実績と、2020年度後期における研究の展望は、セクションごとに以下のとおりである。

(1) 青山学院における女子高等教育の歴史

女子短期大学の戦後教育の意義を研究するため、現存資料を確認・保管・整理しつつ、「青山学院女子短期大学70周年記念ギャラリー展「青山学院における女子教育の歴史を振り返る」」を2019年度、20年度にかけて連続4回実施する計画を立てた。

「vol.1 青短の源流を訪ねて」は、2019年5月24日から6月15日まで実施、約250名の参加を得た。また小林瑞乃と齋藤元子による2回のギャラリートークを行った。

「vol.2 青短の誕生と発展」は、10月28日から11月22日まで実施した。小林瑞乃がギャラリートークを行ったほか、子ども学科教授・久保制一氏にギャラリートーク1回分を依頼、また現代教養学科教授・堀川照代氏による「リベラルアーツを支える図書館」と題したタイアップ講演会を「公開教養講座」の一環として行った。

「vol.3 ミッション×女子教育×ジェンダー」は、2020年3月23日から5月9日まで実施予定であったが、新型コロナ・ウィルス感染拡大の影響により、キャンパスへの入構が困難となったため、8月6日まで会期を延長した。

2020年度にかけても引き続き、ギャラリー展のかたちで女子短期大学の戦後教育の意義をわかりやすく提示するための枠組を研究し、他大

学の資料センターにおける展示・資料公開などに学びつつ、女子短期大学のクロージング行事として企画されたギャラリー展を実施している。最終回となる「vol.4 青短の教育70年の軌跡」は、10月12日から11月7日までが会期である。(なお、このギャラリー展のパネル原稿を含む製本冊子は、2021年3月13日に予定されている式典「青山学院女子短期大学70年の歩みを感謝する集い」にて、記念品として出席者に贈呈することを予定している。)

また、2020年12月7日には、青山学院大学教育人間科学部教授・大森秀子氏による講演会を開催し、青山学院における女子教育の展開が、より広い教育史からみてどのような特徴をもつのかという問題について理解を深める機会をもつ予定である。

(2) 青山学院女子短期大学卒業生の卒業後のライフコースの研究

女子短期大学における女子高等教育の意義を確認する最後の機会として、卒業生アンケートを実施する計画を立て、2019年11月下旬に卒業生1200名にアンケート発送を行った。

2020年度には、2019年度のアンケート調査の結果を受け、何人かの卒業生にインタビュー調査を行い(15名程度を予定)、青山学院女子短期大学卒業生のキャリア・ライフコースの実態、および能力開発の実態を調査している。特に学び直しの経験、意欲と動機、内容やカリキュラムについて詳細な聞き取りを行うことを意図している。なお、新型コロナ・ウィルスの感染拡大により、インタビューはオンラインでの実施となる見込みである。

(3) 共学四年制大学におけるジェンダー教育の意義

国内外の大学におけるジェンダー研究・教育の現状を学ぶため、2019年5月30日に、鈴木直子がレポーター、藤田和美がコメンテーターとなり、村田晶子・弓削尚子編『なぜジェンダー

教育を大学でおこなうのか』(青弓社、2017年)の読書会というかたちで研究会を開催した。

また、他大学のジェンダー研究所の活動と役割を知るため、①2019年7月11日、早稲田大学ジェンダー研究所所員・弓削尚子氏を、②10月3日、一橋大学ジェンダー社会科学センター共同代表・貴堂嘉之氏を、③2020年6月18日、国際基督教大学ジェンダー研究センター顧問・田中かず子氏および運営委員・高松香奈氏を、④7月28日、和光大学ジェンダーフォーラム創設者・井上輝子氏を、⑤11月10日、立教大学ジェンダーフォーラム前所長・和田悠氏を招いて、それぞれ講演会を行い、各大学のジェンダー研究所の活動内容を具体的に学んだほか、立ち上げまでの経緯や現状の課題なども把握することができた。

合わせて、他大学のジェンダー教育の現状を知るため、2019年12月20日に、都留文科大学のジェンダー教育プログラムに関わっておられる都留文科大学教授・大辻千恵子氏を招いて講演会を行った。2020年6月1日には、青山スタンダード科目「ジェンダーとフェミニズム」を長年担当してこられた青山学院大学兼任講師・西山千恵子氏を招いて、青山学院大学の学生たちの実情に照らしたジェンダー教育のあり方について考える講演会を開催した。

さらに、アメリカにおける女子教育の歴史と終焉を学ぶため、創価大学教育学部教授・坂本辰朗氏を2020年2月13日に招いて講演会を行った。

2020年9月14日には、渋谷区とジェンダー研究センターとの連携を模索するため、渋谷区役所総務部男女平等・ダイバーシティ推進担当課長・永田龍太郎氏による講演会を行った。

以上のような研究会や講演会を通じて、四年制共学大学におけるジェンダー教育の目的・意義・方法、およびジェンダー研究所の役割・意義についての理解を深めるとともに、各自の文献調査を行っていく。

(4) 青山学院大学女子学生・青山学院短期大学卒業生・社会人女性のエンパワーメントに資する生涯教育のかたちをめぐる研究

生涯教育と女性をめぐる状況を学び、大学に必要とされている生涯教育の中身を模索するため、青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授・本庄陽子氏を2019年9月6日に招いて講演会を行った。また、2020年1月14日には、早稲田大学文学部教授・村田晶子氏を招いて講演会を行い、戦後日本における女性の生涯教育をめぐる歴史と問題点などを学ぶ機会を得た。

合わせて、(2) にあげた卒業生の卒業後のライフコースの研究で行われる卒業生インタビューで学び直しニーズを把握するほか、男女共生社会の実現のために大学が果たしうべき役割として、生涯教育の中身を具体的に模索する。2020年10月23日には、現代における雇用環境の変化のなかで、個人（特に女性）がどのように能力を開発するべきかを学ぶため、青山学院大学経営学部教授・山本寛氏の講演会を行った。

また、ジェンダー研究所のギャラリーを用いてジェンダーに関わる視覚的な展示を行う際の参考例として、国立歴史民俗博物館の「性差の日本史」(2020年10月6日～12月6日開催)に学ぶため、2021年1月14日に、国立歴史民俗博物館教授・横山百合子氏を招いて講演会を行うことを予定している。

なお、いずれのセッションにおいても、外部講師による講演会は、2020年度にはすべてオンラインで行うこととなった。

最後に、本プロジェクトの成果を2021年発行の最終号の年報にまとめるにあたり、メンバーの研究テーマを掲げておく（いずれも2020年9月時点での仮題）。

(1) 青山学院における女子高等教育の歴史
小林瑞乃「青山学院における女子高等教育の歴史的意義」

清水康幸「青山学院女子短期大学が戦後女子高

等教育に果たした役割」

八耳俊文「青山学院女子専門学校から青山学院女子短期大学へ」

齋藤元子「青山学院における女子高等教育の歴史的意義」

(2) 青山学院女子短期大学卒業生の卒業後のライフコースの研究

宇田美江「青短卒業生のキャリアと能力開発」

菅野幸恵「青短卒業生の卒業後のライフコースの分析」

(3) 共学四年制大学におけるジェンダー教育の意義

梅垣千尋「学問世界と＜女性の知＞」

後藤千織「共学四年制大学におけるジェンダー教育の意義」

鈴木俊之「共学四年制大学におけるジェンダー教育の意義」

鈴木直子「共学四年制大学におけるジェンダー教育の意義」

藤田和美「共学四年制大学におけるジェンダー教育の意義」

(4) 青山学院大学女子学生・青山学院短期大学卒業生・社会人女性のエンパワーメントに資する生涯教育の形をめぐる研究

河見誠「女性の生涯教育と共生社会」

趙慶姫「女性の生涯教育と表現」